

鴨田遺跡

弥生時代 (2300年前～1800年前)

絵が描かれた土器

まつりに使われた
土器なのよ。



※人物部分を拡大

鴨田遺跡は長浜市の南西部にある弥生時代を中心とした遺跡です。集落全体を防御のために濠で囲んだ「環濠集落」の一つです。

たくさんの土器のほか、大量の木製品も出土しました。土器には他の地域のものも多く含まれており、遠い場所の人々とも交流を持っていたことがわかります。

「絵画文土器」には人物のほか、龍や魚とも見て取れる絵が描かれており、水に関連したまつりに使われたことが想像できます。

弥生時代の周溝墓



鴨田遺跡からは集落跡以外にも弥生時代の有力者の墓である周溝墓も発見されました。

左の写真では、四角形の溝をもつ墓である「方形周溝墓」と前方後円墳の古いかたちである「前方後円形周溝墓」の形がよくわかります。

まつりの木製品



鳥形木製品



サシバ型木製品

左の写真の「鳥形木製品」は、まつりに使われたものと考えられています。鳥はまつりと深く関わっており、豊作を願うものという説や、亡くなった人の魂を運ぶという説があります。

下の「サシバ形木製品」は、「さしば」という身分の高い人の顔を隠すために用いられた道具をかたどったものであり、高貴の象徴であると言われています。

このほかにも剣や刀をかたどった木製品などが出土しています。

ムラでまつりをおこなっていたの。



様々な道具

鴨田遺跡からは様々な木製品が出土しました。色々な仕事にあわせ、多くの道具を使い分けていたことがわかります。



くわ はさき
鍬の刃先



くわ どろよ
鍬の泥除け



田んぼなどをならすエブリ



くわ え
鍬の柄の部分



すき
鋤 (シャベル)



あみ
魚をとる網の枠

木でできた道具を
使っていたの。



わら たた つち
藁などを叩く槌



ま
糸巻き



火おこしの道具



やよいじだい 弥生時代とは？

コラム

弥生時代とは、今から約 2300 年前から約 1800 年の、稲作が大陸から伝わって広まった時代のことで

す。稲作を始めたことによりたくさんの食料を比較的安定して得られるようになりました。

その結果、定住し集落は大きくなりました。また田んぼの整備などのためにリーダーの役割を果たす人が必要となったことで

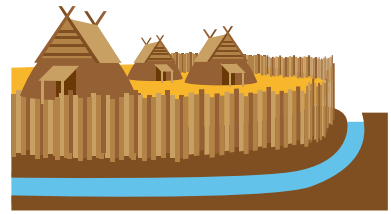
しょう。弥生時代の集落は濠や柵などで防御された「環濠集落」が代表的です。米づくりに必要な土地や水のため集落同士の争いが絶えなかったことを示しています。

弥生時代には金属製品の使用が始まりました。主にまつりには青銅器が、道具や武器として鉄器が使用されました。金属器はとても貴重であったので石器も同時に使われ続けました。

弥生時代の特徴



稲作の開始



環濠集落



石器と金属器の使用



旧町配置図

● 交通アクセス

公共機関：JR 北陸本線「長浜駅」下車、近江鉄道バス「市立長浜病院」下車すぐ
車：国道8号線沿い「市立長浜病院」付近

● お問い合わせ

ながはましぶんかざいほご
長浜市文化財保護センター
〒526-0802 滋賀県長浜市東上坂町 981

TEL 0749-64-0395

平成 25 年 11 月発行

発行：長浜市教育委員会

制作：橋本技術株式会社